

2026年5月24日

## 主日礼拝

礼拝讃美歌⇒169番 (SK 姉)

『喜び歌えハレルヤ』

聖書⇒詩編 107 編 23~32 節 (MM 姉)

『彼らは、海に船を出し／  
大海を渡って商う者となった。  
彼らは深い淵で主の御業を／  
驚くべき御業を見た。  
主は仰せによって嵐を起こし／  
波を高くされたので  
彼らは天に上り、深淵に下り／  
苦難に魂は溶け  
酔った人のようによろめき、揺らぎ／  
どのような知恵も呑み込まれてしまった。  
苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと／  
主は彼らを苦しみから導き出された。  
主は嵐に働きかけて沈黙させられたので／  
波はおさまった。  
彼らは波が静まったので喜び祝い／  
望みの港に導かれて行った。  
主に感謝せよ。主は慈しみ深く／  
人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。  
民の集会で主をあがめよ。長老の集いで主を賛美せよ。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒483番

『人生の海の嵐に』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14 章 15~17a 節 (KT 姉)

『あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。』

聖書⇒使徒言行録 2 章 1~3, 17~18 節

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。』

『神は言われる。終わりの時に、／  
わたしの霊をすべての人に注ぐ。  
すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／  
若者は幻を見、老人は夢を見る。  
わたしの僕やはしためにも、／  
そのときには、わたしの霊を注ぐ。  
すると、彼らは預言する。…』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒490 番 (KH 兄)

『尊きかなわれさえ』

## 《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 51~58 節 (KH 兄)

『わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。』それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパン

である。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。』』

(式)

礼拝讃美歌⇒405 番  
『愛する者を養うために』

## 《建徳》

聖書⇒ヨハネの手紙一 4 章 17 節 (CN 兄)

『こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。  
この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。』

聖書⇒マタイによる福音書 25 章 34~40 節

『そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 3 章 3 節

『あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。』

聖書⇒ペトロの手紙一 3 章 15 節

『心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。』

聖書⇒ルカによる福音書 12 章 11 節

『会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。』』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 5 章 16 節

『時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 9 章 19～23 節

『わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。また、わたしは神の律法を持っていないわけではなく、キリストの律法に従っているのですが、律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。』

聖書⇒テモテへの手紙二 2 章 2～3 節

『そして、多くの証人の前でわたしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる忠実な人たちにゆだねなさい。キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 16 章 7 節 (KH 兄)

『しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 19 章 30 節

『イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。』

聖書⇒使徒言行録 2 章 1～4 節

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。』

聖書⇒使徒言行録 2 章 32～33 節

『神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。』

聖書⇒使徒言行録 2 章 17 節

『イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。』

礼拝讃美歌⇒449番 (KH 兄)

『主の流された尊い血潮』

《建徳要旨》